



スポーツを通じた 共生社会の実現に向けて



ホストタウン登録の経緯

池田市では、生涯スポーツの振興を図る中で、より多くの市民が障がいの有無にかかわらずパラスポーツを体験できるようにするとともに、幅広いスポーツの魅力を味わい、運動やスポーツを通して体力・健康・仲間づくりの輪を広げること目的に、平成28年度から毎年、パラスポーツフェスタを開催しています。

また、令和元年度には、市内小中学校において、本市在住の車いすバスケットボール選手を招いた体験会も実施しました。そのような中、パラスポーツフェスタ等で本市と連携しているNPO法人パラキャンを通じて、フランスの車いすラグビー連盟から正式に依頼があったことから、平成31年2月にフランスの車いすラグビーチームのホストタウンに登録されました。

1 まち歩きの実施および バリアフリーマップの作成

NPO法人パラキャンの協力を得て、車椅子や視覚障がいの方と市民、企業関係者(日清食品ホールディングス株式会社、(株)池田泉州銀行)、市職員が一緒にになって、阪急池田駅から市内の主要な観光施設までのルートやトイレマップの調査を行いました。そして、まち歩きの成果をもとに、バリアフリー情報を記載した観光マップを作成しました。

また、外国人留学生にも協力していただき、外国人目線でアドバイスをもらうとともに、マップは海外の方も使用できるよう、英語版と仏語版もあわせて作成しました。



2 多様性理解のための VR技術を使った映像の制作・活用

池田市がホームタウンを務めるガンバ大阪の選手にご出演いただき、マイノリティや多様性への理解を促す動画を作成し、その一部にVR技術を取り入れることで、発達障がいの特性を当事者目線で疑似体験できるようにしました。

動画は学校教育の現場などで使用することを想定し、大学教授など専門家の意見も取り入れながら、子どもから大人までが理解しやすい内容としました。



3 パラスポーツ体験を通して 共生社会を考える!

市内小・中学校からの依頼を受けて、NPO法人パラキャンより各学校に講師としてパラアスリートを派遣し、競技用車椅子の試乗体験や車いすバスケットボールのミニゲーム、パラアスリートへの質問コーナーなど、パラスポーツを通じた子どもの多様性理解を促すための授業を行いました。



4 オンラインを通じた相互交流の実施

コロナ禍における国際交流の新しいかたちとして、SNS型掲示板をウェブ上に開設し、希望する市内小・中学校の生徒とフランスの車いすラグビー選手がオンラインで交流を行いました。

実際に、NPO法人パラキャンを介してフランスの代表選手からメッセージ動画が投稿され、それに対して日本の学校からも写真や応援メッセージを発信するなど、事前合宿での来日に向けて親交を深めました。



今後の展望

今回のまち歩きの成果を令和2年度末に策定予定の「(仮称)池田市バリアフリーマスターplan」に反映

市内小・中学校でのパラスポーツ体験授業およびパラスポーツフェスタを来年度以降も継続して実施

SNS掲示板を使ったオンライン交流の継続と、事前合宿時ににおける練習会の見学等の機会を提供

ダイバーシティ教育を推進するため、今回作成した動画を市内小・中学校の授業や教員の研修等に活用

